様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０９０９

研究課題名（和文）日系人収容所における「敵性文化」の統制　日本語の使用・宗教活動・学校教育を中心に

研究課題名（英文）Regulation of Enemy Culture in Japanese American Assembly Camps during WWII

研究代表者
水野　剛也（Mizuno, Takeya）

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：９０３４８２０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：十分な研究成果をあげることができ、大変に満足している。当初4年間の計画だったものを3年間で打ち切切り、あらたな研究計画によって科研費に申請（採択、基盤研究C、課題番号　26370871、研究課題　「第２次大戦時ハワイ日系人新聞の検閲　アメリカ軍による戒厳令下の「敵国語」統制、2014年-2019年」）したのは、そのためである。期間を通じた主要な研究成果として、雑誌論文5本（すべて査読性、日英両言語）、学会発表6回（日米学会）、図書2冊（単著1冊）をうみだすことができた。

研究成果の概要（英文）：Overall, the proposed research went so well, more than it was expected. That is why the originally 4-year research was finished a year earlier and a new research program get started.

研究分野：アメリカ・ジャーナリズム史

キーワード：ジャーナリズム　日系アメリカ人　強制立ち退き・収容　第2次世界大戦　日本語　宗教　学校教育

１．研究開始当初の背景

研究開始当初は、それは基本的に現在も大きくは変わらないが、本研究課題に関する先行研究は希少であった。それは、日系アメリカ人研究がさかんなアメリカにおいても、もちろん日本においても同様である。

真珠湾攻撃から約半年後、アメリカ西海岸に住む 11 万人以上の日系人は、長年住み慣れた居住地から強制的に立ち退かされ、遠方の収容施設に隔離された。彼らはまず、緊急につくられた「仮収容所」（assembly center）へ送られ、最終的に内陸部 10 ヵ所の「転住所」（relocation center）に移され、大多数は戦争が終わるまでそこで暮らすことを強いられた。

この強制立ち退き･収容は、現在ではアメリカ史上もっとも深刻な「失政」のひとつとして理解されており、多方面で相当数の研究が蓄積されている。たとえば、黄禍論（アジア系住民の排斥運動）など歴史的な背景、政策の決定や実行の過程、法的な不当性、世論やマス･メディアの受けとめ方、日系人に及ぼした個人的･社会的な影響、などである。とくに、1980 年代に名誉回復を求める「リドレス」運動が急速に高まり、最終的に政府が謝罪･補償をしてからは、多くの一次史料や当事者の証言が発掘･公表され、学術的な研究が飛躍的にすすんだ。

しかし、最初期の「仮収容所」の期間（1942 年 3 月～10 月）、さらに収容施設内での「敵性文化」政策については、その重要性にかかわらず、日本･アメリカ両国の学会においていまだ手つかずのままである。本研究は、この未開拓の領域を埋める試みである。

２．研究の目的

真珠湾攻撃（1941 年 12 月）から約半年後、アメリカ連邦政府は西海岸に住む日系アメリカ人（日本人移民とその子孫、以下、日系人）を強制的に立ち退かせたが、彼らを隔離した収容施設内で日本を象徴する「敵性文化」をどのように統制、あるいは許容したのか？

本研究の目的は、とくに最初期の「仮収容所」（assembly center）に限定し、かつ「日本語の使用」、「宗教活動（仏教･神道など）」、「学校教育」の 3 点に焦点をしぼり、つとめて実証的な方法で上の問題を解明することである。

３．研究の方法

実証性を重視する歴史研究であるため、もっとも基幹的な研究方法は、一次史料の発掘･渉猟である。

その一方で、既存文献の収集･整理の徹底化も重要である。これは、あらゆる研究にとって基本的な作業であり、本研究とて例外ではない。とくに、毎年、新たに発表される論文･書籍等は絶対に見落とさぬよう、最新の研究動向をできるだけ広い範囲で注視してきた。

加えて、日米の複数の学会誌を定期購読し、かつ頻繁に学会に参加することで、重大な見落としがないように努めた。

冒頭で指摘した一次史料の発掘･渉猟に戻ると、具体的には以下のような活動、および成果･発見が得られた。

まず、カリフォルニア州立大学バークレー校バンクロフト図書館が公開しはじめたオンライン･カタログから、研究課題に直接的に関係する一次史料を発見することができた。バンクロフト図書館は日系アメリカ人強制立ち退き･収容に関する膨大な史料群を所蔵している。もちろん、オンラインで公開しているのはその一部であるが、多くの未見の史料を入手することができた。研究の核となりえる史料を一定量確保できたことは大きな前進である。

加えて、アメリカのミネソタ州ミネアポリスにあるミネソタ州立大学を訪れ史料を収集してきた。この大学には、アメリカへの移民に関する膨大な文書コレクションが所蔵されている。渡米前からオンライン上である程度の準備をしておいたこともあり、実にスムーズに、かつ効率的に必要な史料を集めることができた。入手した史料や文献のほとんどは日本国内では手に入らないものばかりであり、わざわざ現地を訪れるに値する価値があった。また、本研究課題そのものとは直接的に関わらないものの、ミネソタ州立大学には児童文学や YMCA に関する史料も所蔵されており、日本との意外な関係のある文書類も多く見つけることができた。これらは今後の研究につながる可能性を感じさせる内容を含んでいた。

最終年度には、コロラド州立大学ボルダー校、およびアリゾナ州立大学にも出張し、日系アメリカ人関係の一次史料を渉猟してきた。コロラド州･アリゾナ州ともに第 2 次世界大戦中は日系アメリカ人が強制収容された施設があり、豊富な記録が残されている。実に有意義な出張となり、多くの未見の史料を獲得することができた。

４．研究成果

下の「５．主な発表論文等」でも詳説しているように、十分な研究成果をあげることができ、大変に満足している。

当初は 2011 年～2014 年までの 4 年間で研究を遂行する計画であったものを 3 年目で打ち切り、あらたな研究計画によって科研費に申請（採択、基盤研究 C、課題番号 26370871、研究課題 「第2次大戦時ハワイ日系人新聞の検閲 アメリカ軍による戒厳令下の「敵国語」統制、2014 年～2019 年」）**したのも、そのためである。**

それぞれ完全に分離した研究であるわけではないので、本研究の成果も十分に次の研究に生かすことができるはずである。

より具体的には、思いのほか学会発表ができ、かつその中から多くの査読付論文を日本語・英語によって刊行できた。

さらに、3 冊目となる単著を刊行できたことは望外の喜びであった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　５件）

1　水野剛也、「日系アメリカ人強制立ち退き･収容をめぐる日米プロパガンダ戦　第二次世界大戦時のラジオ･トウキョウと「人質」論の再考」、『メディア史研究』第 36 号（2014 年 8 月）：42～65。

2　Takeya Mizuno, “An Enemy’s Talk of ‘Justice’: Japanese Radio Propaganda against Japanese American Mass Incarceration during World War II,” *Journalism History* Vol.39, No.2, (Summer 2013): 94-103.

3 Takeya Mizuno, “A Disturbing and Ominous Voice from a Different Shore: Japanese Radio Propaganda and its Impact on the US Government’s Treatment of Japanese Americans during World War II,” *The Japanese Journal of American Studies* No.24 (June 2013): 105-124.

4　水野剛也、「日系アメリカ人戦時集合所における郵便検閲　『日本語紙の購読』『私信』『外部メディアへの寄稿･投稿』の統制を中心に」、『メディア史研究』第 32 号、pp.23～41、2012 年 9 月。

5 Takeya Mizuno, “Censorship in a Different Name: Press ‘Supervision’ in Wartime Japanese American Camps 1942-1943,” *Journalism & Mass Communication Quarterly* Vol.88, No.1 (Spring 2011): 121-141.

〔学会発表〕（計　６件）

1　Takeya Mizuno, “Press Freedom in the *Enemy’s* Language: Government Control of Japanese-Language Newspapers in Japanese American Camps during World War II,” Association for Education in Journalism and Mass Communication (AEJMC), National Convention, Montreal, Canada, August 7, 2014.

2　水野剛也、「日系アメリカ人と／のマス･メディア、ジャーナリズム研究　『日本人』研究者が開拓すべき『広大な未踏地』」、メディア史研究会、日本大学、2014 年 1 月 25 日。

3　水野剛也、マイグレーション研究会、共同研究プロジェクト講演会、「日系アメリカ人と／のマス･メディア、ジャーナリズム研究『日本人』研究者が開拓すべき『大きなすき間』」、京都･私学会館、2013 年 10 月 5 日。

4　Takeya Mizuno, “An Enemy’s Talk of Justice: Japanese Radio Propaganda against Japanese American Mass Incarceration during World War II,” Association for Education in Journalism and Mass Communication (AEJMC), National Convention, Chicago, August 10, 2012.

5　水野剛也、「国連軍縮会議 in 松本」記念講演会「戦時下における政府とジャーナリズムの自由　近著『「敵国語」ジャーナリズム』（春風社、2011 年）から」、ユタ日報松本研究会･松本市中央図書館、松本市中央図書館、2011 年 7 月 30 日。

6　水野剛也、「日米開戦後のアメリカの日本語新聞　アメリカ政府による『敵国語』メディアの統制政策を中心に」、20 世紀メディア研究会、早稲田大学、2011 年 5 月 28 日。

〔図書〕（計　２件）

1　水野剛也、『「自由の国」の報道統制　大戦下の日系ジャーナリズム』（吉川弘文館、2014 年）。

２　水野剛也、「東雲雑誌」、「日米」、「日布時事」、「布哇新報」、「羅府新報」、宮地正人･佐藤能丸･櫻井良樹編、『明治時代史大辞典』（吉川弘文館、2012 年）。

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
Takeya Mizuno, “Committee on War Information,” “Newspapers in the camps,” and “Office of War Information (Office of Facts and Figures),” in The Densho Encyclopedia of the Japanese American Incarceration（http://www.densho.org）

水野剛也、「日系アメリカ人と／のマス･メディア、ジャーナリズム研究 『日本人』研究者が開拓すべき『大きなすき間』」、『マイグレーション研究会会報』第 9 号（2014 年 5 月 10 日）：10〜11。

６．研究組織
(1)研究代表者
水野剛也
東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：９０３４８２０１

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：